

釜房ダムの洪水調節効果(速報)

～台風9号に伴う出水で釜房ダムが効果を発揮～

台風9号に伴う降雨により釜房ダム流域では笹谷観測所において160mmの雨量が観測され、流域平均で111.8mmの雨量が観測されました。

この洪水によりダムへの流入量が最大389m³/sの洪水が発生しました。

釜房ダムでは最大241m³/sの流量カットを行い、下流の名取橋水位観測所で河川水位上昇を54cm低減させる効果があったものと推測されます。

8月22日から23日にかけて、台風9号の降雨に伴う出水においては、流域平均累加雨量が111.8mmに達し、ダムに流れ込む水量が、最大で毎秒389立方メートルに達する出水となりました。

釜房ダムでは、この出水をダム貯水池に貯め込むことにより、ダムへの最大流入量 毎秒389立方メートルに対しての総放流量が毎秒148立方メートルに抑え、下流河川への洪水量を低減することができました。

この洪水量の低減効果は、名取橋水位観測所（仙台市太白区）での河川水位の上昇を約54cm低減させました。これにより、名取橋付近の水位は概ね「氾濫注意水位」以下に抑えられました。

※数値については速報値になります。

＜発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会＞

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 釜房ダム管理所
宮城県柴田郡川崎町大字小野字大平山10-6
電話 0224-84-2171（代表）

管理所長 鹿野 安彦（内線201）

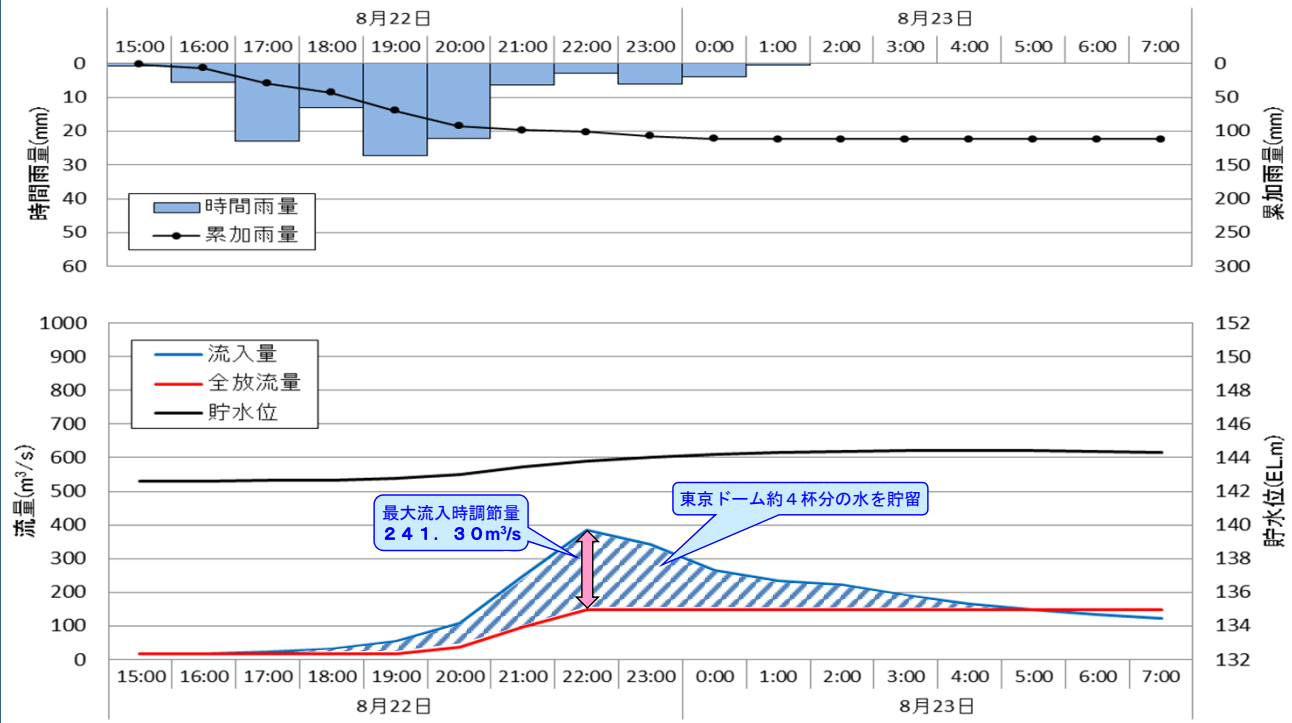
名取川水系 釜房ダムの水位低減効果（平成28年8月22日台風9号に伴う降雨）

- 釜房ダム上流域において、流域平均累加雨量は111.8mm、最大流入量は毎秒389m³となるなど、管理移行後第21位の流入量を記録しました。（全28洪水）
- 今回の洪水期間中において、**436万m³（東京ドーム約4杯分）の水を貯留**し、下流の洪水被害の軽減を図りました。
- ダム下流の名取橋観測所地点では、**54cmの水位を低減**させる効果があったものと推測されます。

位置図

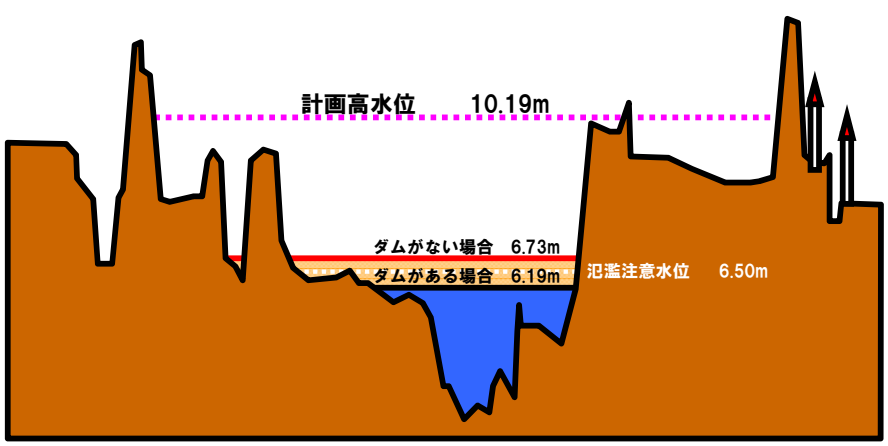


釜房ダム洪水調節状況



河川水位の状況（名取橋観測所）

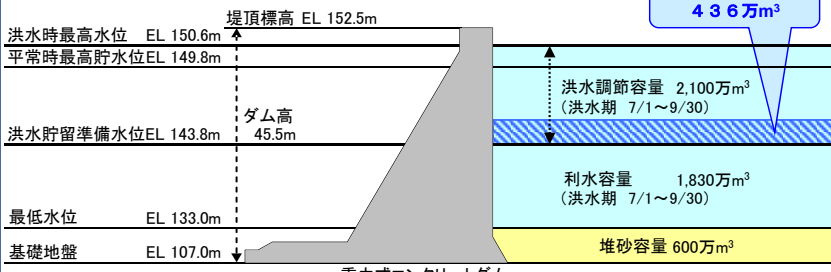
ダム整備前：6.73m
 ダム整備後：6.19m
 →54cmの水位低減



釜房ダム状況写真（貯水位ピーク時）



釜房ダム貯水量配分



名取川水系 釜房ダムの水位低減効果（平成28年8月22日台風9号に伴う降雨）

釜房ダム貯留状況

防災操作前



8月22日 貯水位：142.62m

防災操作後



8月23日 調節時最高貯水位：144.43m
貯め込んだ最大高さ：1.81m
貯め込んだ全体量：436万m³